

辺野古埋め立て土砂搬出反対ニュース

北九州連絡協議会《2015年12月06日・No34》

連絡先…森下宏人 090-9495-3902 八記久美子 080-1730-8895



《八記久美子の沖縄報告・その1》

キャンプ・シュワブで座り込み

感動・尊敬そして国への怒りで、震える心と涙



ゲート前に付いたのは6時半頃



座り込んだときは薄暗かったが、7時前には明るくなったゲート前。



沖縄県警機動隊到着



「必要以上の抵抗は体を痛める。無理をしてはいけない」と話すヒロジさん。

沖縄の現状を肌身で感じたいと、12月1日(火)~4日(金)沖縄に行ってきました。那覇地裁で開かれた「辺野古代執行訴訟」の第1回口頭弁論をはじめ、普天間基地など、沖縄の中を回ってきました。

日程順ではないのですが、まずは一番強烈だった、キャンプ・シュワブのゲート前の座り込みから報告します。

名護では、共同センターのみなさんに大変お世話になりました。ありがとうございました。



排除開始の直前、緊張が走る。「毎日こんな闘いをしているのか」と、沖縄のみなさんへの感動と尊敬の念、そして国への怒りで心が震える。



襲いかかる機動隊。カメラをなくしたり壊したりしてはいけないと思ひ、急いでバックになおす。

私は前から2列目だったので、あっという間に隣りの人とのスクラムを強い力でとかれ、足と両腕をつかまれ運ばれました。体中の力を抜いて、引力に身を任せたからだけではありませんが、「この人重い」「この人重い」と言いながら、それでも、後頭部に手を添えてけがをしないように配慮しているのが分かります。左側の人に「警視庁は乱暴だと聞いたけど、沖縄県警の人？優しいね」と言うと、一瞬表情が和んだ気がしました。その後20~30m離れた柵の前で下ろされ「歩けますか？」と聞かれたので、「歩けるけど歩かない」というと、また、両脇を持ち上げられ、引きずられて柵の中に入れられました。



敷地の中から私達を見る米兵達



中には、座っていたパイプ椅子ごと、連れてこられる人も



柵の中から出ようとする人たち・出すまいとする機動隊。



柵から出て、ゲート前に戻ってきた住民。この日、7時30分までに、工事車両は入らなかったそうです。参加者150人。普通この人数なら10分くらいで排除される所、23分かかったとの報告がありました。

「警察車両の下には有刺鉄線があるが、いまは針がカミソリ風になっているので、潜り込まないように」との報告があり、いそいでそばにいた人がスマホで写真を撮りみんなに見せた。「ホントだ」とどよめきが…。



ゲート前で反省会(?)。けが人はいないか、改善点はないかなど、報告をしあいました。また、初めての参加者は自己紹介させてくれるので、私も北九州の報告をしました。また、弁護士さんや救護担当の方からの報告もありました。



最後にみんなで「♪座り込めここに、ここに座り込め」を歌いました。映画「戦場ぬ止み」の中で流れていたもので、それなりに歌えました。薄暗いゲートの前に座り込んだ時も唄いました。また、この後、正面ゲートの前でも唄いました。私は家に帰り着くまで、ずっとこの歌を口ずさんでいました。



上・正面ゲート前に移動し、ぐるぐるデモ行進。
下・その後の総括集会



ゲートの中の横断幕。「自分たちの勝ち取ったものを守れ」と書いてあるそうです。「昨日はなかった。沖縄は戦利品ではない」とそばにいた方が怒っていました。



最後にシュプレヒコールを行い、3時間近い朝の行動を終えました。このゲートの斜め前にテント村があり、みなさんはそっちに移動していました。

●新聞報道によると、機動隊は翌5日(土)、座り込みをしていた住民のリーダー2人を逮捕。抗議したヒロジさんも拘束されてしまいました。住民は「逮捕は不当であり、運動をするものを弾圧する非常に悪質なやり方」と抗議しています。沖縄では、このような大変かつ非戦の闘いが、毎日続けられています。

※ヒロジさんは、映画「戦場ぬ止み」で、ゲート前で頑張っていたハスキーボイスの方です。